

ホシガレイの漁業実態並びに 放流後の成長、移動、回収状況について

福島県水産試験場相馬支場
平成7～13年度事業報告書

1 部門名

水産業—栽培漁業—種苗放流
分類コード 19-05-18000000

2 担当者

安岡 真司

3 要旨

ホシガレイは本県沿岸漁業の対象種のひとつであり、著しく単価の高いカレイであることから、ヒラメに次ぐ栽培漁業の技術開発(種苗生産と放流)が望まれている。

そこで、そのための検討材料として、本県のホシガレイの漁業実態を把握するとともに、放流後の種苗の成長、分散移動、回収(再捕)状況について調査した。

(1) 漁業実態

県内のホシガレイ水揚げ主要7漁協における水揚量、平均単価を整理した。1992～2001年の期間における年間水揚量は1.0～3.2tで推移している。平均単価は、当初7千円/kgを超えていたが、1995年以降は4～5千円/kg程度で推移している。

(2) 放流後の成長

7～8月にかけて全長約10cmで放流された種苗は、翌年7月頃から本格的に漁獲され始め、放流後2年目の夏には40cmを超える個体も多くなる。

(3) 放流後の移動

1歳魚での標識放流の試験結果からは9割以上が放流地点の南北20km以内で捕獲されること等から、水平移動は比較的小さいものと考えられる。

(4) 放流種苗の回収状況

1994～1999年の放流群について、3歳未満までの推定回収率は5.2～24.8%とばらつきがみられたが、放流場所や放流条件によっては20%程度の回収率が得られるものと考えられる。

4 その他の資料等

なし